

## 発刊によせて

町長 半 沢 栄一郎



人は皆ふるさとを持っている。そのふるさは一つしかない。

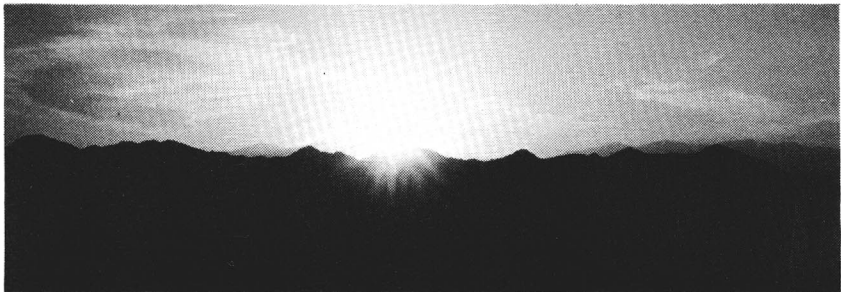
私の心の中のふるさとは、自然の懐にすっぽりと浸っている。

人は生活の為に山を切り野を削る。文化の為に新しい社会を造り、化学の力を信じながら、未来への光を求める。

然し私のふるさとは、古い自然の姿をそのままに受け継いで、静かな風景を広瀬川に映している。

この町に在るすべての生きとし生けるものがお互いに、胸がしめつけられるように愛するふるさとの面影を、幾千万年の血の連なりの中に秘めて、

あなたと一緒にその小径を辿ることを、私は変ることのない美しい横顔として、何時までも残したいと思う。



夕日に映える小手五岳